

第15期・第16期

かすが市民懇話会 活動報告書

語って行動！ みんなで令和のまちづくり



2020.07.30

かすが市民懇話会 活動報告書 目次

1. かすが市民懇話会の概要	1
(1) 設置目的	1
(2) 基本的な活動内容	1
(3) 15 期・16 期かすが市民懇話会の概要	2
2. 提案内容と市の見解	4
3. 会員からのメッセージ	21
4. 各回の会議録	27
5. かすが市民懇話会 会員名簿	45
6. かすが市民懇話会要項	48

1. かすが市民懇話会の概要

(1) 設置目的

かすが市民懇話会要綱第 1 条により、設置目的は次のとおりです。

行政への市民参画の機会の拡大を図り、市民の率直な意見を行政施策に生かし、市民と行政との協働による市政運営を一層推進していく必要があるため、かすが市民懇話会を設置する。

(2) 基本的な活動内容

私たちは、かすが市民懇話会を「春日市に住む一人ひとりがそれぞれの住みよさを見つけることができ、誰もが住みよいと感じるまちを目指すために、私たち市民の声を市に直接届ける場にしたい」という思いから、生活に身近な話題で、年齢や性別や経験に関係がなく、誰でも意見が言いやすいテーマを設定し、かすが市民懇話会要綱第 2 条第 1 項により次の活動を行いました。

ア 市の重要課題や施策に関する意見交換及び提言

イ 市政の運営に関する調査及び研究

ウ その他懇話会の設置目的を達成するために必要な活動

また、同要綱に、私たちの提案に対する市の対応は次のとおり規定されており、懇話会の活動に際しての庶務は、秘書広報課が行うこととされています。

市長は、前項の活動によって提案された事項については、市政の運営に生かしていくよう努めるものとする。（要綱第 2 条第 2 項）

(3) 15 期・16 期かすが市民懇話会の概要

年間テーマ

「語って行動！みんなで令和のまちづくり」

各回のテーマ、活動内容など

第1回 日程：令和元年7月29日（月）
場所：春日市役所2階 大会議室
内容：概要説明、役員の選任
テーマ：「かすがのまちづくりについて」
情報提供者：井上市長



第2回 日程：令和元年9月24日（火）
場所：春日市役所2階 大会議室
内容：講話、グループ討論
テーマ：「地区防災について」
情報提供者：地域生活部 安全安心課 消防防災担当 渡邊係長



第3回 日程：令和元年11月28日（木）

場所：春日市役所2階 大会議室

内容：講話、グループ討論

テーマ：「考えよう かすがの未来」

情報提供者：株式会社ホーホウ代表取締役 木藤亮太 氏



第4回 日程：令和2年2月3日（月）

場所：春日市役所2階 大会議室

内容：講話、グループ討論

テーマ：「春日原駅周辺整備事業について」

情報提供者：都市整備部 道路管理課 街路担当 松崎主任



第5回 日程：令和2年3月26日（木）

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため懇話は中止し、書面による意見集約

第6回 日程：令和2年5月25日（月）

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため懇話は中止し、書面による意見集約

2. 提案内容と市の見解

私たちは、「語って行動！みんなで令和のまちづくり」を年間テーマとして、市と市民が協働したまちづくりを推進するために、5つの課題に取り組みました。

この懇話会の話し合いの中で、市民の視点で捉えた課題を解決していくための方策を提案させていただいたところですが、これらの提案の中でも、特に「住みよいまちづくりに生かしていただきたい方策」を提案内容としてまとめました。この提案内容に対する市の見解をいただきましたので、掲載します。

各回のテーマと担当部署

第2回 地区防災について
安全安心課 消防防災担当

第3回 考えよう かすがの未来
経営企画課 企画担当

第4回 春日原駅周辺整備事業について
道路管理課 街路担当

第5回 高齢者の健康増進について（書面提出）
高齢課 高齢者支援担当

第6回 自治会活動の活性化（書面提出）
地域づくり課 協働推進担当

1 地区防災について（R01.9.24 開催）

安全安心課消防防災担当

主な意見①
防災活動は自治会ごとに違いがあるので、全自治会で情報の共有をしてはどうか。例えば、自治会で作成している防災マニュアルの公開や、災害時の要支援者の確認方法などは参考になると思う。
市の見解
本市の全35地区に自主防災組織が設立されており、各地区毎に地域の特性に応じた防災訓練等が行われています。現在は、特性の似た中学校区毎での合同防災訓練なども開催され、地区同士での防災活動についての意見交換も進んでいるところです。 今後も、市自治会連合会と協力しながら、全自治会での情報共有などについても考えていきたいと思います。

主な意見②
防災意識を高めるために、小・中学生を対象とした防災訓練をさらに充実させたらどうか。例えば、運動会でバケツリレー競争をするといった取組も効果があると思う。
市の見解
小学生に対しては、子ども会単位や小学校に出向いての防災講話、中学生に対しても、各地区や中学校区毎の防災訓練や防災講話を行っております。より充実した訓練の実施については、教育委員会と連携をとりながら進めていきたいと思います。

主な意見③

防災訓練に住民の参加を促すために、ポイント制度を導入してみてはどうか。例えば、ポイントが貯まるとゴミ袋 1 枚プレゼントというようにすると、参加率も上がるのではないか。

市の見解

各自主防災組織では、自治会で行う他の行事と合わせて防災訓練を開催するなど、参加率を上げる様々な取組が行われています。今後も、より参加率が上がるよう、各地区の自主防災組織と連携していきたいと思います。

主な意見④

自治会活動が活性化しているところは防災組織も活性化されているので、日頃から隣近所で交流を深めることが大切だと思う。

市の見解

自主防災組織とは、「自分たちの地域は 自分たちで守る」という連帯感に基づき、近所の人々が役割を分担しながら、心と力を合わせて助け合うものです。地区の防災組織の活性化には、その中核となる自治会活動の活性化が不可欠です。今後も防災組織の活性化を通して、日頃からの住民同士の交流を深めていけるよう努めていきたいと思います。

2 考えよう かすがの未来（R01.11.28 開催）

経営企画課企画担当

主な意見①
現在、社会福祉協議会をはじめ、シルバー人材センターや男女共同参画センターなど、支援機関が市内に点在している。将来的には交通の便が良い場所に集約してはどうか。
市の見解
令和2年3月に策定した「春日市公共施設等マネジメント計画」の中で、大量の公共施設が老朽化していくこと、施設の更新等に対する財源不足が見込まれること、人口構造の変化による将来的な市民ニーズの変化が見込まれることを踏まえ、「市民へのサービス水準を維持・充実させながら、施設の統廃合、複合等を検討することで、公共建築物を適正に配置し、修繕・運営に必要なコストの適正化を図る」という方針を示しています。 既存の施設を長寿命化し、最大限に活用することが最優先にはなりますが、施設の統廃合、複合等を検討する際は、市民の交通の便も考慮しながら、場所を検討していきます。 なお、市社会福祉協議会は市の施設ではありませんが、当該団体の意向を踏まえながら、連携・協力していきたいと考えています。

主な意見②
九州大学のキャンパスが市内にあるという強みを活かし、大学、企業、行政の力を合わせて、企業の拠点を作れないか。また、IT企業等の誘致も検討すべきではないか。
市の見解
本市は市域が 14.15 km ² と狭く、企業誘致には十分な用地を確保できないことから、現時点では積極的に考えておりません。一方で、1 km ² あたりの事業所数は県内 1 位で、多くの小規模事業者が本市で事業を行っています。本市では、市商工会と連携して「創業支援等事業」を実施しており、市内創業者への支援を重点的に行っています。引き続き、市商工会との連携を強化し、商工業振興に努めていきたいと考えています。

主な意見③
筑紫地区全体が自分のまちだと思えるような施策を進めて欲しい。例えば、筑紫地域の情報誌や、同地域の人であれば市民と同じ料金で施設の利用ができる日を作ってはどうか。
市の見解
少子高齢化や人口減少の進展が見込まれている情勢の中で、効果的かつ効率的な行政運営を推進していくためには、複数の自治体による広域連携が非常に重要となります。特に筑紫地域は、旧筑紫郡として地域性や課題を共有している部分が多くあります。今後も、春日市単独と筑紫地区による連携のどちらが有効なのかをきちんと見極めながら、筑紫地区は一つの地域であるという連帯のもと、施策を検討していきたいと考えています。

主な意見④
特産品と呼べるものが無いので、何か作ってはどうか。
市の見解
奴国時代にどんぐりのアク抜きを行っていた施設の遺跡にちなみ、市商工会が３年かけて開発した、「どんぐり焼酎」を販売していました。特産品は、本市のプロモーション事業の一つとして、また、ふるさと納税の返礼品の一つとして、春日市の魅力を発信するツールとなると考えます。今回のような皆さんからの提案などを参考に、本市にゆかりのある特産品を製作・活用することも、本市のＰＲ方法の一つとして検討していきたいと考えています。

3 西鉄春日原駅周辺整備事業について（R02.02.03 開催）

道路管理課街路担当

主な意見①
高架化によってできたスペースを、一時的に子どもを預けられる場所にしてはどうか。また、高齢者が利用できる施設も検討し、様々な世代が触れ合えるコミュニティスペースにしてはどうか。
市の見解
高架下の一部を保育所や保育スペースとして活用することについては、検討中です。高架下への保育所設置は様々な課題があるため、現時点においては、保育所としての活用は難しいと思われます。高齢者が利用できる施設としての活用についても協議を行いました。保育所同様、様々な課題があるため活用は難しいとのこと。駅部については、鉄道事業者である西日本鉄道株式会社（以下「西鉄株」という。）に対し、保育スペースや多世代交流スペースの設置要望があることを伝えています。

主な意見②
現在、商店街はあるが交流スペースがない。広くなる歩道を活用し、一時的な出店やイベントを開催してはどうか。まち自体のPRになり活性化されると思う。
市の見解
市民や駅周辺で事業を営んでいる人など、様々な人・団体がイベントを開催できるよう、歩道や駅前広場を整備します。行政がイベントを開催するのではなく、市民の皆さんが自らイベントを開催することが重要であると考えていますので、行政としては手続きの簡素化など側面支援を行います。春日原地区、

そして春日市が元気なまちとなるよう、今後も市民と皆さんとの連携を強めてまいります。

主な意見③

市民の活動の場を広げるため、コミュニティバスの路線を春日市と大野城市で繋げてはどうか。

市の見解

コミュニティバスの広域連携については、両市の関係所管で協議を行っています。大野城市コミュニティバスまどか号の春日原駅東口駅前広場への乗入について検討を進めています。

主な意見④

高架下のスペースに、ライブハウス等の電車の音が気にならない施設を作ってはどうか。

市の見解

高架下土地所有者は西鉄(株)ですので、利用方法に関しては、基本的に西鉄(株)が検討、決定します。しかしながら、高架下空間活用はまちづくりの重要なポイントとなりますので、市民の皆さんからの意見、要望は西鉄(株)に伝えます。

4 高齢者の健康増進について

※未開催のため、予定していたテーマに関する意見（今後の課題、改善点、提案など）を集約し、その一部を掲載しています。

高齢課高齢者支援担当

集約した意見の一部①
高齢者が、生涯、春日市で笑顔で暮らすために、仲間づくりの輪を広げることが大事である。高齢者が自分から楽しく話ができるように、聞き上手な話し相手に徹するよう心掛けたり、高齢者が毎日の食事を自分で作るように習慣づけるために、1週間分のメニューや、簡単で美味しく食べられるメニューを提案したりするなどの支援が必要なのではないか。また、高齢者が無理なく楽しめるスポーツとして、グラウンドゴルフや、ペタンクなどのニュースポーツができる環境を作ることも効果的だと思う。 生活習慣病の予防のためには、体を動かすことが大事であるが、1人では継続して行うことが難しいので、集団で行ってはどうか。そのために、多くの地区で実施している清掃活動、健康体操、グラウンドゴルフなどに参加しやすいような環境をつくることが重要である。身近な人から声掛けを行い、仲間が集まることで、その輪が大きくなり楽しくなってきて継続できると思う。メンタル面でも、仲間が増えることで、笑ったり、会話したりすることでコミュニケーションが深まり、生活習慣病の予防につながる。
市の見解
本市では、いきいきプラザや総合スポーツセンター、老人福祉センター「ナギの木苑」、そして、各地域において、様々な介護予防事業を展開しております。その中で、運動に関しては、要介護認定には至らないが体力に自信のない高齢者を対象とした介護予防教室から元気な高齢者向けの教室など、幅広く、集団での教室を開催しています。教室終了後の運動継続の提案として、高齢者向けトレーニング施設「いきいきルーム」や、総合スポーツセンター内のトレーニングジムや温水プール等を紹介しています。 また、各地域における「ふれあい・いきいきサロン」や単位シニアクラブの定例会などに様々な講師を派遣して、介護予防につながる取組を市が支援して

います。その他には、市シニアクラブが、世代間交流、子どもたちの登下校の見守り、友愛訪問、環境美化など様々な地域貢献活動を通して、会員自身の健康づくりや介護予防活動を行いながら、会員の仲間づくりや趣味活動など、活発に活動しています。

超高齢社会を目前に控え、高齢者の皆さんが住み慣れた地域で、安心して暮らし続けることができるようにするためには、健康づくり・介護予防の取組が高齢者の健康増進の鍵とされますので、今後もこれらの取組を進めてまいります。

集約した意見の一部②

高齢者の交通事故が増加しているため、免許返納を促進すると同時に市内及び近郊へのアクセス拡充や、おでかけ教室（交通機関の使い方や、施設の紹介や利用方法を教える場であり高齢者のスキルアップや出会いの場）を実施し、高齢者が元気に外出できる環境を整えると良いのではないかと。遊びに行く事が増えると気持ちの面から健康でいたい、長生きしたいとなるのではないかと。

市の見解

本市においては、運転免許証を自主的に返納した 70 歳以上の市民に対し、一定の支援（交通系 IC カード乗車券「ニモカ」の交付）を行うことにより、高齢者の交通事故の抑止及び公共交通機関の利用を促進しております。その手続きの際には、コミュニティバス時刻表の配付や各交通会社の割引制度の紹介等を行い、外出の支援を行っております。また、その人の心身状況等に応じて、介護予防教室などの紹介を行っております。高齢者の皆さんにとって、暮らしの中で健康を継続するきっかけとなるよう、今後も様々な社会資源等の提供に取り組んでいきたいと思っております。

集約した意見の一部③

高齢者の健康増進のために次のようなことが、欠かせない条件だと思う。

1. 適度な運動：春日市では特定健診があるので、自分の現在の健康状態を確認しながら、自分に合った運動の仕方を、いきいきプラザなどで指導を受ける。新型コロナウイルスなどで外出できない時は、家の中でできる運動を心掛ける。

2. 高齢者の活用による労働の投入：少子高齢化の時代、体力がある高齢者（定年退職者）は、今までの経験・知識・技術を活かした仕事を持つ。

3. 栄養

4. 心のケア（認知機能の衰え、社会的孤立、身体の衰え）：様々な困難時に家族が近くにいるとは限らないため、ボランティア活動など、自分が楽しいと思うところに参加する。

5. 生活資金（医療費、介護費用も増加や、成年後見制度）：高齢者が振り込み詐欺などに遭わないために気をつけることや、介護保険の内容などをよく知り、必要な時に必要な介護保険が利用できるように知識を持っておく。疑問があれば、社会福祉協議会や包括支援センターなどに問い合わせる。在宅介護ができるように、訪問医療が充実すると良いと思う。

家に閉じ籠らないように、外出の機会を提供することがまず必要だと思う。その上で、それぞれの得意なことを生かせる場を作り、人と交流することで、それが日々の生き甲斐になり、健康増進につながるのではないかと。退職した人がもう一度社会で活躍する場所を作ることで、健康維持ができると思う。社会全体を、働く世代とシニア世代が、それぞれの役割で支える仕組みを作ることで、多くの高齢者が健康に過ごすことができると考える。

市の見解

ご意見のとおり、高齢者の健康増進及び介護予防を推進しながら、安心した生活を送るためには、運動、栄養、生きがいづくりのほか、人との交流や困ったときの相談先など、様々な要素が必要です。本市におきましては、一般介護予防事業における各種教室（運動・栄養・口腔・認知症予防・フレイル予防）等や、介護予防に関するボランティアの養成及び活動支援、権利擁護（成年後見制度含む）に関する相談及び支援など、個人に寄り添った支援を行っていま

す。

また、地域における住民運営の通いの場（ふれあい・いきいきサロン、地区カフェなど）に講師を派遣し、介護予防の取り組みを強化しております。また、運営側のボランティアに対し、運営に関する活動を行った場合にポイントを付与することで、その活動の継続的な支援を行っています。

さらに、高齢者が自ら外出や介護予防に取り組むきっかけとなるよう、市・地域・民間の社会資源等をまとめた「介護予防・生活支援ガイドブック」を作成しています。今後も随時、情報更新を行い、高齢者の健康づくり及び介護予防を推進してまいります。

5 自治会活動の活性化

※未開催のため、予定していたテーマに関する意見（今後の課題、改善点、提案など）を集約し、その一部を掲載しています。

地域づくり課協働推進担当

集約した意見の一部①
・春日市の自治会活動は、他市町村と比べても充実していると思う。しかし、地縁的な繋がりが希薄化するなど、今後の自治会活動の継続が困難になると考えられる。働いている人などは参加しにくい状況もあると思うが、自治会活動を広く周知し、活動の内容を良く知ってもらう必要があると思う。 ・潜在的に地域に貢献したい人はいると思うので、例えば、60～70代の人に市から郵送をする場合、「お仕事を退職されたら、ぜひ、お住いの地域で活躍しませんか！」というチラシを同封してはどうか。クリーン作戦、サロンやこども食堂などのお手伝いから始めてもらい、気軽に公民館に行ける雰囲気を作ることで、公民館に関わる人、役員候補者を増やしていくことができると思う。 ・子育て世代の人が自治会に入っていく必要があると思いますが、共働きの家庭も多く平日はなかなか活動ができない。さまざまな世代の人が一緒にできる事や世代別でできる事など、活動内容を見直していかなければいけないと思う。 ・自治会活動をよく知らない人のために、自治会が実施している運動会などの活動報告を、写真や動画を使ってPRしてはどうか。
市の見解
ご指摘のとおり、現在、自治会活動の担い手不足は、各地区自治会においても課題となっております。各地区自治会では、少しでも自治会活動に興味を持ち参加してもらうため、地域での活動内容や活動風景を掲載した自治会だより

を発行したり、公民館等に設置されている掲示板を活用したりして、活動報告や行事のお知らせ、自治会の思い等を伝えているところです。市としても、今年度、自治会加入促進チラシをリニューアルし、自治会に加入するメリットを明確に伝えるようにしました。市報かすが（令和2年7月15日号）では、自治会加入促進に関する記事を掲載し、自治会活動が「自分ごと」として捉えられるよう、自治会の課題や実際に活動に参加している人の声を市民の皆さまにお届けしています。

また、平成29年度に本市自治会の制度や活動等を取りまとめ作成した冊子「協働のまちづくりの礎～春日市の自治会活動～」、「春日市の自治会の魅力～支え合い、助け合うまちづくり」につきましても、全面リニューアルを行い、より皆さんに本市自治会について理解してもらえるよう、内容の充実を図る予定です。さらに、冊子のリニューアルに伴い、幅広い年代の方に理解してもらえるように、写真やイラストを多用して内容を分かりやすくした、自治会活動に関するリーフレットも合わせて作成する予定です。今後も、これらのツールを用いて、転入された市民の皆さんをはじめ、各地区にお住まいの多くの方に自治会情報を届けながら、市民の皆さまの自主的な活動参画へつなげてまいります。引き続き、市内の各地区自治会活動の広報にも力を入れてまいります。

集約した意見の一部②

自治会活動の活性化なくして、市の活性化はないと思いますが、大半の自治会が役員の高齢化、後継者不足、自治会未加入者の増加を問題視していると聞いた。若い人が働きながら自治会活動に関わることができる手段を考えていく必要がある。小・中学校のPTA役員のつながりを活かした事業を展開する団体

があると聞いたので、連携してイベントなどを行ってはどうか。

市の見解

様々な地域課題解決のためには、地域団体や自治会などが、双方向で意見交換を行う対話の場を通して、連携した取組を行っていくことが必要です。各地区自治会においては、すでに、子ども会育成会やおやじの会といった小・中学校の保護者が主体となった会と協力・連携して自治会事業を進めていただいているところです。また、他にも自治会とは異なる場所で活動する団体もございますので、今後も、自治会に情報提供を行いながら、地域団体が連携した「協働のまちづくり」の取組を推進してまいります。

集約した意見の一部③

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、自治会の会合やイベントなどが延期・中止されていると思う。こうした中で、自治会活動が新型コロナウイルス感染症拡大防止の一翼を担えるのではないかなと思う。そのために、自治会に若い人を集める必要がある。現在、自治会は高齢の人が多く、若い人の参加は少ない。若い人はデジタル技術などの知識があり、SNSの活用や会議のオンライン化など、自治会連合会にも貢献できると思う。また、老若混合で市内を巡回し、住民に対し、体調の悪い人に自主隔離を勧める、居酒屋や公園などに長時間集まることを控えるなどの啓発活動もできるのではないかな。インターネットを通じて、医療従事者や患者などへの差別や嫌がらせが懸念されているが、こうした活動が人とのつながりを生み、不安を取り除くことができる。このように自治会活動に若い人が入ることで、新しいつながりが構築される。地域コミ

ユニティが、現在の危機をバネにして、以前よりも強くなればと思う。

市の見解

今回の新型コロナウイルス感染症拡大防止の対応につきましては、各地区自治会にて、3密を避ける貸館の仕方や、自治会事業の開催方法等を検討していただき、各地区にて工夫を凝らした対応をしていただいております。若い世代の自治会への参画につきましては、現役世代の方は、日中仕事を持っており、なかなか参画までは難しいという状況があります。

しかし、春日市が取り組む、地域・学校・家庭の三者で子どもたちを共に育てる「コミュニティ・スクール」の活動の中で、地域の人が子どもたちの見守りを行い、教育の一助となることで、保護者の方々が地域に目を向けるきっかけになっているのも確かです。また、地域の人に見守られ、地域の行事に参加することが当たり前で育った子どもたちが大人になった時、自治会活動に若い世代が多く参画するようになると考えます。実際に、本市のコミュニティ・スクールで育った20代の住民が居住する地区自治会のウェブサイトを作成する手助けを行ったり、積極的に自治会行事運営の手伝いをしたりしている地区もあります。本市といたしましても、若い世代が自治会に興味を持ち、参加してもらえるよう、継続的な情報発信に努めてまいります。

集約した意見の一部④

世代が異なる人や住人同士の交流のきっかけが少なく、隣人のことを知ることなく生活している人も多いと思う。現在、自治会を支えているのは高齢の人が多く、若い人のなり手が少ないとのことだったが、災害時に大切なのは地域

のつながりである。さまざまな世代の人が自治会活動に参加できるよう、負担の軽減や活動内容を見直す必要がある。自分のことから参加して、自分たちでまちづくりができる仕組みに変えていくことで自治会活動の活性化を図れると思う。

市の見解

各地区自治会では、住民同士のふれあいの場として、中学校区別ふれあい事業や、地区夏祭り、餅つき等、地域の住民同士が知り合いとなり、自治会活動に参加するきっかけとなる場を提供しています。そういった場で、地域の人や地域のことをよく知ってもらうことで、少しでも自治会活動に興味を持ってもらえるよう取り組んでいるところです。

また、各地区に設置されている掲示板に、自治会行事案内や自治会だより等を掲示し、自治会への加入に関わらず、多くの人に自治会の役割や活動、必要性を知ってもらう工夫も行っています。市としても、地域での活動が「自分ごと」だと感じてもらい、参加してみようと思うきっかけとなるよう、市報かすが（令和2年7月15日号）に、自治会活動に参加している人の思いを掲載しております。自分にもできることがあると感じることが、所属感や帰属感につながり、自分の住むまちをもっと良くしたいという思いにつながるといいますので、今後も、自治会活動の意義や役割等を繰り返し伝えてまいります。

3. 15期会員からのメッセージ

山下 勝義

今回、かすが市民懇話会に参加させていただき、良い経験をさせていただきました。自治会活動やコミュニティ・スクールなど、名前は聞いたことはあるものの、具体的な内容が分からないものばかりであり、非常に良い勉強となりました。また、この懇話会に参加し、ご参加の皆様の真摯に取り組む姿勢や意見を聞き、「春日市を良くしていきたい」という気持ちに感銘を受けました。今後もこの懇話会を続けていただき、意見を出し合いながら、より良い春日市を目指していけたらと思います。私自身も少しずつでも自治会活動等参加していきたいと思います。

この度は、井上市長をはじめ、この懇話会を支えていただいた職員の皆様、会員の皆様に大変お世話になり、感謝を申し上げます。春日市民懇話会の今後の発展をご祈念いたします。

天野 美江

私は、春日市文化協会（団体推薦）にて参加。初めて市民懇話会の存在を知りました。

市側からの丁寧な情報・説明と老若男女、色々なジャンルの人達との意見交換に、とても勉強に成り、刺激を受け有意義な2年間でした。春日市に住んで、早や50年弱となる自分が、あまりにも市の現状を知らなかった事。知ろうとしなかった事が恥ずかしくなっております。

これから高齢者の仲間入りの私ですが、これからは、市の情報に聞く耳を持ち、活用、協力して行こうと存じます。小さな意見を無駄にしない様に、市もこれまで以上の活用を願います。

新型コロナウイルスの件で、色々大変な時ですが、収束の後は、又、今まで諸々の活動を増々発展させていただきたく存じます。

萩原 孝一

市民懇話会第 15 期会員として参加し、行政側と市民の懸け橋として意見を述べる機会を得て貴重な体験をしました。多くの市民がこの懇話会のことを知らないのではという気がする。

そこでより多くの市民に参加して頂くよう各自治会から会員を選出するのはどうだろう。そうすることにより自治会側の状況を把握することができ、また懇話会の情報等を自治会の参考に出来、懇話会の成果が更に現れるのではなからうかと思います。

中西 秀成

かすが市民懇話会に参加させて頂き誠にありがとうございました。私は福岡市に在住しておりまして春日市のことをあまり詳しくわかりませんでした。春日市の自治会の先進的な取組等深く感銘を受けました。

今回、懇話会に参加させて頂き本当に勉強になり感謝いたします。色々と学ぶことが出来て私の財産になりました。また参加者の皆様が春日市に対する真剣な思いがあることを感じる事ができました。

春日市の一事業者として今後とも関わる事があると思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。2 年間どうもありがとうございました。

園木 崇嗣

かすが市民懇話会に参加させていただき、春日市の様々な施策について、まずは見聞を広めることができました。

私自身、市民として、市内で働く者として、子育て中の身として、忌憚のない意見を述べさせていただきました。時には、関係者の皆様にとって耳の痛いことも申し上げたかと思います。それでもきちんと耳を傾け、回答される、市長はじめ市職員さんの度量の深さと、春日市をもっといいまちにしたいという愛情を感じました。

春日市の未来図を描いた会にて、私は、「なぜだか不思議だけど、みんなが笑顔で過ごしているまち」になったらいいな、と書きました。私自身、これからも、職業人として、市民として、できることを市民の皆さんと一緒にやっていきたいと思います。春日市の魅力がもっと高まって、みんなの笑顔があふれている、自然と楽しい気持ちになる、そんなまちになっていったらいいですね。

2年間という短い期間ではありましたが、委員を務めさせていただき、ありがとうございました。

安齋 静香

春日市に住んで6年、小学校PTA役員になって4年になりますが、地域の事等、自分の知らないことがたくさんあります。春日市が大好きで、より良くしていこうという強い思いを持っていらっしゃるいろんな地域・年齢の会員の皆さんのお話が聞けて、とても勉強になりました。自分でできる事を考えながら、まずは地域、学校で活動していきたいと思います。

良い経験をさせていただき、ありがとうございました。

服部 浩治

はじめて出席した時に、自己紹介がありました。私はこの場所に出席すべき人間だったのだろうか戸惑いましたが、出席者の方々の熱心なご意見を色々と聞かせて頂いているうちに、自分は春日市シニアクラブの代表で出席したつもりでしたが、出席者の皆様のご意見をテーマに沿ってお聞きしているうち、自分は春日市の何を話せば良いのか不安になってきました。

若いまち春日も高齢化が進み、各クラブでは役員選出が難しい時代になりつつあり、各シニアクラブの会長や他の役員選出が各会の難問題となり、シニアクラブ全体が崩壊するのではないかと心配事となっています。

私は、難しい問題は「自治会の活性化」が必要だと思います。各地区で色々の問題もあると思いますが、主な行事は決まっております。いろんな方法で行っていると思いますが、少しずつ方法を変えていくのも自治会役員の仕事かと思

います。若い人材が必要です。そして、自治会の風通しを良くする事が大切です。

この２年間、懇話会にご出席の皆様、井上市長をはじめ役員の方々大変お世話になりました。有難うございました。

石川 賢人

２年間という短い期間でしたが、このかすが市民懇話会に参加させていただいたことは良い経験になりました。市の職員の皆様から様々なお話を伺う機会は大変貴重で、自分の住むまちについて学ぶことができました。また、会員の皆様も様々な考えをお持ちで、自分では至らないようなご意見もたくさん聞かせていただきました。春日市をより良くしたいという思いは皆同じで、そのために行動することができる人がこんなにもいると知ることができました。

私は第 15 期会員としての役割を終えてしまいましたが、第 16 期会員の皆様とこれから会員となる方々、そして井上市長、市の職員の皆様によって、より活発な議論がなされることを願います。

尾割 勝廣

かすが市民懇話会のことを市報かすがで知り、応募して、第 15 期会員として２年間活動させていただきました。懇話会メンバーとして活動する中で何とすばらしい会かと実感しました。

運営は事務局の方をお願いしていますが、メンバーの前向きで建設的な意見の中から投票で「その年次のテーマ」を決め、開催日には井上市長はじめテーマの担当部署からの説明を受けた後に、グループ毎に意見交換をし発表を行い、市長から所感をいただく。これが当日のスケジュールであるが帰り際には充実感が味わえる。そして、帰宅後に夫婦でテーマについて話をして共有している。

また、２年間の活動の中でお知り合いもでき、市役所であるいは街中で挨拶を交わせるようになったことも嬉しく思っております。

加藤 太志郎

2013 年(平成 25 年)に春日市に転入し、その後生活する中でいろんな場面で春日市の情報を収集しながら 5 年間経過したところで「かすが市民懇話会」に市民の一人として参加する機会を得ました。

春日市の姿を知りたくて懇話会に参加させていただきましたが、当初は浅学な私に行政に対し意見・提言等の活動が務まるかと心配しておりましたが、立場も年齢も違う皆さんと忌憚なく意見を交換することができ、何とか一役を担うことができましたことに厚くお礼を申し上げます。

懇話会の各回のテーマには、いろんな角度からの案件が取り上げられ、例えば平成 30 年 11 月のテーマである「コミュニティ・スクール」という言葉にも出会い“コミュニティの大切さ”を勉強できました。

そうした中で井上市長からご意見を伺えたり、職員の方にも質問することができ、有意義な時間を与えていただき、感謝しております。

春日市も新型コロナウイルス問題の最中、新たな課題も発生するでしょうが、「安心・安全で住みやすい街」にますます発展し、たくさんのすばらしい市民が増えるよう期待しています。ありがとうございました。

大東 九二生

2 年前市民懇話会メンバーに再度入りました。

現在も地域の活動をしていますが、行政からの強い縛りはなく、自主的な活動運営ができており地域住民とのコミュニケーションがとれてつながりも広がってきています。

懇話会の運営の進め方にも感心しています。年間の活動方針にしてもメンバーからアンケートをとって各回のテーマを決定し、テーマ毎に関係部から担当者が詳しく説明して頂ける。その後グループ毎に分かれて同じテーマを討論するという流れであり討論の中では熱が入りヒートアップすることがしばしばあった。

また討論する中で行政内の解らない事はサポート役の市担当者からの的確にその場でアドバイスを頂いており理解できる。グループ別の発表では、当班とは違った見方をしているグループがあり非常に勉強になった。所要時間がわずか2時間ではあるが、内容と密度の高い懇話会だと感心しています。

討論会終了後、市長から各グループの発表に対する現状、問題点、課題を踏まえてコメントを頂く「ガラス張りの市民と行政」だなとつくづく感じている。

市民懇話会メンバーとして「みんなで春をつくろう」を合言葉に討論してきた事が貴重な体験、勉強になりました。今後も地域のより活性化に微力ながら貢献したいと肝に命じています。

田中 道朗

第15期の会員として一昨年より参加させて頂きました。参加させて頂き、素直に感じたことは、春日市には自分達の住む町を良くしていこう、生活しやすく、魅力的な町にしていこうという想いの強い人達が多くいると感心しました。

また、市長をはじめ市職員の方々もこういった市民の意見を聴き入れ、市政に取り組んでいる事も今の春日市が有ると思います。

今後も市民懇話会や出前トーク等を通じて、市民の声を行政に取り入れ、その時代や世代に合った政策を実施していただき、春日市に住む市民が生活しやすい町に、また他方から福岡に移動してくる人達がこの町に住みたいと選ばれる春日市となるように、春日市をみんなで盛り上げていきましょう。

4. 各回の会議録

第1回（15期・16期）かすが市民懇話会 会議録

日 時	令和元年 7 月 29 日 午後 7 時から午後 8 時 10 分まで
会 場	春日市役所 2 階 大会議室

出席者 かすが市民懇話会会員 24 名（欠席者 6 名）

第 15 期	山下勝義、天野美江、池田賢一、中西秀成、園木崇嗣、安齋静香、服部浩治、石川賢人、尾割勝廣、加藤太志郎、北村豪司、大東九二生、田中道朗、速見均
第 16 期	太田隆、古森政基、進乙弘、刈崎隆司、園田美結、塚本あけみ、土持静代、藤井友美、藤原正博、山本優果
事務局等	春日市長、秘書広報課長、広報広聴担当係長、広報広聴担当職員 4 名

議事

1 開会
2 市長あいさつ
市長より、かすが市民懇話会会員へ挨拶
3 かすが市民懇話会 概要説明
（事務局）第 14 期・第 15 期活動報告書 7 ページ及び 11 ページに基づき説明
4 かすが市民懇話会新規会員の依頼書交付
市長より、新規会員に依頼書を交付
5 事務局職員紹介

(事務局) 秘書広報課長より挨拶、職員紹介
6 会員自己紹介
第 15 期会員から席順で自己紹介
7 市から説明「市民と共に歩む協働のまちづくりについて」
情報提供者 井上市長
以下の内容について説明を行った。 ・日本の人口構造の変化 ・超高齢社会へ突入 ・行政ニーズの拡大・多様化による協働の必要性 ・高齢者を支える活動 ・子育てしやすい環境づくり ・2018 年の市の転出入人口 ・コミュニティ・スクールの充実 ・自治会組織の再編成
8 かすが市民懇話会 役員互選
(議長：平成 30 年度かすが市民懇話会副会長 塚本あけみ) かすが市民懇話会要綱第 4 条の規定に基づき、会長及び副会長の互選 会 長：山下勝義（第 15 期会員） 副会長：尾割勝廣（第 15 期会員）、太田隆（第 16 期会員）、園田美結（第 16 期会員）
9 活動方針協議
(議長：令和元年度かすが市民懇話会会長 山下勝義) 年間スローガン、各回のテーマ等については、アンケートを提出してもらい、その結果をもとに、役員へ一任することを決定
10 市長所感
11 閉会

第2回（15期・16期）かすが市民懇話会 会議録

日 時	令和元年9月24日 午後7時から午後9時10分まで
会 場	春日市役所 2階 大会議室

出席者 かすが市民懇話会会員 23名（欠席者7名）

第15期	山下勝義、天野美江、池田賢一、園木崇嗣、長野義雄、安齋静香、服部浩治、石川賢人、尾割勝廣、加藤太志郎、嶋村俊寛、大東九二生、速見均、藤石秀昭
第16期	太田隆、古森政基、進乙弘、刈崎隆司、園田美結、土持静代、藤井友美、藤原正博、山本優果
事務局等	春日市長、秘書広報課長、広報広聴担当係長、広報広聴担当職員3名、安全安心課消防防災担当係長

議事

1 開会
2 会長あいさつ、懇話テーマ等報告
山下会長より挨拶及び令和元年度の活動方針について報告。
3 市長あいさつ
市長より、かすが市民懇話会会員へ挨拶を行う。
4 市から情報提供「地区防災について」
情報提供者 渡邊係長（地域生活部 安全安心課）

以下の内容について説明を行った。

- ・ 警固断層地震の被害想定
- ・ 防災機能
- ・ 防災対策指導員
- ・ 自主防災組織
- ・ 地震災害時の活動
- ・ 自主防災訓練
- ・ 自主防災組織の課題

5 グループ懇話

市から情報提供を受けて感じたことや、春日市の防災上の課題など、幅広く懇話を行った。

6 懇話内容の発表

※網掛けは発表者。

1班 山下勝義、園木崇嗣、石川賢人、嶋村俊寛、太田隆、土持静代

- ・ 自助、共助の関係を強化するために、自治会活動（イベント）の後に防災訓練を実施してはどうか。
- ・ 自治会の担い手が不足している。
- ・ 自治会ごとに防災活動に違いがあるので、他自治会の事例を参考にしてはどうか。
例えば、自治会で作成している防災マニュアルの公開や、災害時に支援が必要な人を事前に確認しておく等、他自治会でも参考になることがあると思う。
- ・ 災害時には、中学生にもお手伝いとして協力してもらったらよいのではないかな。

2班 天野美江、尾割勝廣、大東九二生、藤石秀昭、古森政基、進乙弘

- ・災害に遭う危機感が少なく、防災訓練の参加率が低い。大きい災害に対する備えも必要であるが、身近な災害について考えることで、参加率も上がるのではないか。
- ・市から情報提供された、警固断層地震の被害想定は小さくないか。
- ・各地域で想定される被災内容に応じて、防災訓練を行うべきである。
- ・各自が地震ハザードマップに記載されている内容を確認しておく必要がある。
- ・災害時に、玄関のドアを開ける係、ブレーカーを落とす係、ガス栓を閉める係といった役割を、家族間で決めておくことが大切である。
- ・自助が強調されがちであるが、共助も大切である。そのためには、自治会の活性化が必要だと考える。自治会役員が高齢化しているので、自治会を活性化するためには、若い人に役員になってもらうことが必要である。
- ・自治会が、各家庭の状況を把握する必要があるのではないか。個人情報の問題もあると思うが、申告制で自治会に登録するのはどうか。
- ・公助の部分で、春日市にある自衛隊と協定を結ぶことができないか。

3班 池田賢一、長野義雄、加藤太志郎、刈崎隆司、藤井友美、山本優果

- ・テレビで避難場所等が放映されるが、こうした情報はどのようにして情報集約されているのか。
- ・情報源を主にテレビに頼り、他に地域の情報を得る手段が少ない人もいる。
- ・電線の断線対策はされているのか。
- ・災害時、川の近くの公民館に避難するのは適切なのか。
- ・春日市は被害が少ないので、防災に対する意識が低いのではないか。
- ・防災意識を高めるために、防災訓練に積極的に参加してもらう必要がある。特に、

小・中学生を対象にした訓練をさらに充実させたらどうか。例えば、運動会でバケツリレー競争をするといった取組も効果があると思う。

4班 安齋静香、服部浩治、速見均、園田美結、藤原正博

- ・中学校区の防災訓練が、雨天中止になることがある。1年に1回は必ず訓練するべきだと思うので、雨天決行か延期にするべきではないか。
- ・防災訓練に住民の参加を促すために、ポイント制度を導入してみてもどうか。例えば、ポイントが貯まるとゴミ袋1枚プレゼントというようにすると、参加率も上がるのではないか。
- ・防災訓練に元自衛隊、医師や看護師等に参加してもらえば安心だと思うので、そうした知り合いがいれば、積極的に参加を促すと良いと思う。
- ・大きな災害の後、防災意識が高いうちに、各自治会でミニ防災訓練を行うと、防災意識の向上に繋がると思う。
- ・自治会活動が活性化しているところは防災組織も活性化されている。日頃から隣近所で交流を深めることが大切だと思う。

7 市長所感

本日も様々なご意見をいただきありがとうございました。

自治会の担い手が不足している、高齢化していることについては、様々な場で話題に上がります。高齢社会の中で、自治会活動を担っていただいているのは、元気な高齢者が多いです。若い人にも自治会活動を担っていただくと良いのですが、仕事をされている方が多く、なり手が少ないのが現状です。このことは、「地区世話人制度」を実施していた頃から伺っておりました。そこで、「地区世話人制度」を廃止し、自治会組織の再編成を行いました。同時に、「まちづくり交付金」を創設し、地域の皆さんで地域のために使っていただくことで、地域の輪が広がってきたと感じています。自治会長には、地域のことは、自分たちで担っていくという崇高な気持ちで取り組んでいただいております。

ますし、役員の方も一生懸命に活動されております。こうした地域の輪を、もっと広げていくことができるよう、行政も支援していきたいと思っております。

また、自治会で各家庭の状況を把握しておく必要があるというご意見もいただきました。市では、民生委員を中心に、各家庭を個別訪問し、了解を得た上で災害時の要支援者の名簿を各地区で作成しております。こうした取組も、協働のまちづくりを進めてきた成果だと思えます。

地域によって防災訓練に特色がありますが、中学校区の防災訓練では、沢山の中学生が参加しています。地域の方にもご意見を出してもらい、素晴らしい取組になっております。

春日市内には、陸上、航空、病院と自衛隊が3つあります。自衛隊と協定を結ぶというご意見もありましたが、人の命は平等ですので、災害が大きい所、危険度が高い所が優先と思っております。ご理解ください。ただし、毎年由市防災訓練には、自衛隊にも参加していただいております。

防災の議論になると、想定外の事態を考えがちですが、行政としては「助かる命は絶対に守る」ということを徹底しなければならないと思っております。規模の小さい災害や、起こりやすい災害で、確実に市民の命を守っていくことが、想定外の事態に対応することに繋がります。誰でもできると思えるようなことでも、日頃から訓練をしていないと実際に災害が来ても対応は難しいと思います。災害をなくすことはできませんが、減災を軸に考えていきたいと思えます。

本日は、多くのご意見を賜りまして、本当にありがとうございました。

8 閉会

第3回（15期・16期）かすが市民懇話会 会議録

日 時	令和元年 11 月 28 日 午後 7 時から午後 9 時 10 分まで
会 場	春日市役所 2 階 大会議室

出席者 かすが市民懇話会会員 20 名（欠席者 10 名）

第 15 期	山下勝義、池田賢一、萩原孝一、園木崇嗣、龍都矢子、長野義雄、安齋静香、石川賢人、尾割勝廣、加藤太志郎、北村豪司、速見均、藤石秀昭
第 16 期	太田隆、古森政基、進乙弘、刈崎隆司、塚本あけみ、土持静代、山本優果
事務局等	春日市長、秘書広報課長、広報広聴担当係長、広報広聴担当職員 3 名、経営企画課長、企画担当係長、企画担当職員 2 名

議事

1 開会	
2 会長あいさつ	
3 市長あいさつ	市長より、かすが市民懇話会会員へ挨拶を行う。
4 テーマ：「考えよう かすかの未来」（第 6 次総合計画市民ワークショップ）	情報提供者：株式会社ホーホウ代表取締役 木藤亮太 氏
	以下の内容について情報提供を行った。

- ・総合計画とは
- ・まちの活性化について
- ・春日市の特徴

5 グループワーク

以下のテーマについてグループワークを行った。

- ・春日市の魅力と課題（強みと弱み）
- ・春日市の魅力を 10 年後につなげるために必要なこと

テーマに沿って、意見を付箋に記入し、模造紙を使って意見を整理した。

6 グループワークの発表

※網掛けは発表者。

1 班 池田賢一、萩原孝一、安齋静香、進乙弘、土持静代

- ・高齢化対策をする必要がある。
- ・富裕層を呼び込んで、市の税収を増やすべきである。
- ・春日市は他市と比べて、保育所が少ないのではないかと。特に駅の近くに保育所を作
ってほしい。
- ・春日市の教育レベルは高く、文化的な遺跡があるのは強みである。
- ・スポーツ分野で春日市が力を入れていない競技があるのではないかと。
- ・春日市は土地が少なく、開発の余地がほとんど無い。
- ・自治会活動が活発であるが、自治会活性化のために若い年代の人の参加が必要であ
る。

- ・春日公園等の大きな公園があり、交通の便も良く、都市環境が充実している。
- ・花火大会も無くなり、春日市で開催されるイベントが少ない。
- ・地理的要因から、災害が少ないという強みがある。
- ・総合スポーツセンターを、もっと有効に活用してほしい。
- ・IT企業の誘致策も検討すべきではないか。

2班 山下勝義、龍都矢子、北村豪司、藤石秀昭、太田隆

- ・病院が充実している。
- ・児童館や教育施設が充実しており、コミュニティ・スクールも強みである。
- ・全国に誇れる奴国の遺跡がある。
- ・人材が豊富である。
- ・物価が安いお店がある。
- ・自治会活動が活発である。
- ・交通の便が良い。
- ・池や公園等の都市環境が充実している。
- ・市内は平地が多く、自転車で移動しやすい。
- ・市内に春日警察署もあり、警察もよくパトロールを行っているので、安心である。
- ・市の職員数が少数精鋭で良いと思う。
- ・春日市も例外でなく、高齢化が進んでいる。ボランティア関係のポイント制度を、より充実させてほしい。
- ・現在、社会福祉協議会をはじめ、シルバー人材センターや男女共同参画センターな

ど、支援機関が市内に点在しているので、将来的には交通の便が良い場所に集約してはどうか。

- ・ 地元の商店が少なくなっている。
- ・ 大きな企業が少ない。
- ・ 道が狭い。
- ・ 狭い市域だけに、今後の広がりが無い。
- ・ 市町村合併は難しいと思うが、筑紫地区全体が自分のまちなんだと思えるような施策を進めてほしい。例えば、年 1 回で筑紫地区の情報誌を発行したり、体育館の利用料金が、筑紫地域の人であれば市民と同じ料金で使える日を設定してはどうか。
- ・ 今後、行政の計画を作る際に、持続可能な計画を作ってほしい。

3 班 石川賢人、尾割勝廣、加藤太志郎、古森政基、山本優果

- ・ 春日市の将来ビジョンとして、福岡市のベッドタウンとしての機能を充実させるか、積極的に春日市を発展させるかで、採るべき施策が変わると思う。ベッドタウンとして充実させるのであれば、福祉や教育を充実させる必要があり、また、行政も財政の健全化を一層図っていく必要がある。春日市を積極的に発展させるのであれば、少子化対策として外国人の受け入れを拡大していく必要がある。今年、改正入管法が施行され、外国人の門戸が広がっている中で、春日市の強みは九州大学が市内にあるということである。大学・企業・行政の力を合わせて、春日市にも企業の拠点が作れないか。
- ・ 周辺の市や施設には、外国人観光客が増えているが、春日市は素通りされている。春日市に外国人観光客を呼び込めるような仕組み作りができないか。
- ・ 春日市を世界に売り込む人材が必要である。

4 班 園木崇嗣、長野義雄、速見均、冽崎隆司、塚本あけみ

- ・春日市はコンパクトシティであり、自転車で市内を移動できるのは強みであるが、狭い道も多く、見通しが悪い所もある。
- ・市民のボランティア意識が高く、自治会活動が活発である。
- ・コミュニティ・スクールが実施されており、教育力が高い。また、学校が家から近く、親も安心して学校に通わせることができる。
- ・空き地が少なく、子どもが近所でボール遊びできる場所が少ない。
- ・公営の霊園が無い。
- ・春日市は、宝町交差点を中心に渋滞が多く、渋滞緩和の整備を行うことで、市の魅力を高めることができると思う。
- ・自転車用の道路を整備することで、自動車ではなく自転車を使用する人が増えて、健康増進に役立つと思う。
- ・春日市は狭い歩道が多い。障がい者に優しいまちにしていくためにも、歩道を整備し、障がいがある人が暮らしやすいまちにしたい。
- ・春日市ならではのまちづくりができないか。例えば、電柱の地中化を行い、さらに災害に強いまちを目指してはどうか。
- ・特産品と呼べるものが無いので、何か作ってはどうか。
- ・春日市の強みであるコミュニティ・スクールを、より発展させ、また、教育のまちとして、外国語に力を入れる等の取組を行うことで、市の魅力を高めていったらどうか。
- ・観光客を春日市に呼び込むために、奴国の丘フェスタでスタッフが着用している衣裳（貫頭衣）を、市職員が普段の仕事でも着用するのはどうか。

7 個人ワーク

10年後に「目指したいまちの姿」を各自で検討した。

8 市長所感

本日も様々なご意見をいただきありがとうございました。

市の将来ビジョンとしてまとめると、春日市は、市民と行政の協働のまちづくりを、これからも進めていく、ということです。これまでの取組の成果の一つが、コミュニティ・スクールです。地方自治体が、同じ制度で同じサービスを提供していても、中身はそれぞれ違います。福岡県内の市町村では、約半分の自治体がコミュニティ・スクールを導入しています。しかし、市内の全自治会が、地域で子ども達を育てる取組をしているのは、全国でも春日市だけではないかと思います。

春日市のコミュニティ・スクールは、全国的に高い評価を受けており、毎年、全国から多くの自治体が視察に来られます。最近では、学校だけではなく自治会に対しての視察も多く、なぜ春日市の自治会がここまで機能しているのかと驚かれます。

コミュニティ・スクールでは、学校では学べない地域の歴史や文化等を、地域の人が子ども達へ教えています。こうした取組ができるのも、毎朝・夕、地域の人が立哨し、子ども達と挨拶をして、信頼関係を築いているからこそだと思います。また、学校でのいじめを全て無くすことは難しいと思いますが、春日市は、学校が地域に開かれており、多くの人が子ども達に目を向けているからこそ、命を奪うような陰湿ないじめは起こりくい環境だと思います。こうして作り上げた基盤を、少子高齢社会に向けて、さらに充実させていくことが重要だと思います。

春日市には、社会福祉協議会を中心とした地域の支え合い活動や、各自治会で開催している「ふれあい・いきいきサロン」、「地区カフェ」等の活動があります。最近では、こうした活動に若い人が参加してくれるようになりました。これから各地区で餅つきが行われますが、おやじの会に所属する地域の若いお父さんや、中学生も参加しています。また、春と秋に全自治会が一斉に行っているクリーン作戦にも中学生が多く参加しています。学校によっては、その日を登校日にして地域の清掃活動をしてから学校に来るようにしているところもあります。そして、中学校区単位で自治会役員研修会も行っています。校区ごとに防犯防災や福祉、環境、コミュニティといった4つの委員会があり、

それぞれのテーマで、地域の人が毎日活動しています。その活動成果を一年に 1 回発表しており、行政は教えてもらう立場で出席させていただいています。これこそが協働のまちづくりだと思います。

行政主導の活動は長く続きませんが、市民の皆さんから提案していただいたものは、長く続いています。行政の役割は、市民の活動を支援していくことだと思います。また、様々なことをするために、市民参画で条例を作りましようと言われることもありますが、私は、条例を作るよりも、市民意識を高めていくことが重要と考えております。是非、地域の活動に目を向けてもらえたらと思います。

春日市の自治会活動は日本一だと自負していますが、後継者不足という課題もあります。しかし、自治会長が不在になった地区はありません。若い人が、地域の活動に参加してくれるようになりましたので、今後、これを広げていく必要があります。市内にある様々な団体が連携して、協働のまちづくりの輪を広げていき、住み慣れた地域で、いつまでも安心して生活できる環境を皆さんと作っていきたいと思います。

最後に、これからは人口減少社会です。人口が増える地域もあれば、減る地域もあります。市民の皆さんが安心して暮らすことができる環境を作り、若い人が春日市に移り住んでいただけるよう、皆さんと一緒にまちづくりを行い、春日市をより良くしていきたいと思っております。

本日は、多くのご意見を賜りまして、本当にありがとうございました。

11 閉会

第4回（15期・16期）かすが市民懇話会 会議録

日 時	令和2年2月3日 午後7時から午後9時まで
会 場	春日市役所 2階 大会議室

出席者 かすが市民懇話会会員 14名（欠席者 15名）

第15期	天野美江、池田賢一、園木崇嗣、服部浩治、石川賢人、加藤太志郎、 大東九二生、藤石秀昭
第16期	太田隆、古森政基、進乙弘、園田美結、土持静代、藤井友美
事務局等	春日市長、秘書広報課長、広報広聴担当係長、広報広聴担当職員3名、 道路管理課長補佐、街路担当職員2名

議事

1 開会
2 市長あいさつ
市長より、かすが市民懇話会会員へ挨拶を行う。
3 テーマ：「春日原駅周辺整備事業について」
情報提供者 松崎主任（都市整備部 道路管理課）
以下の内容について説明を行った。 ・春日原駅周辺の現状、課題 ・西鉄天神大牟田線連続立体交差事業

- ・西鉄春日原駅周辺整備事業
- ・西鉄春日原駅周辺の高架下空間利用計画
- ・西鉄春日原駅周辺関連事業のスケジュール
- ・西鉄春日原駅周辺まちづくり会議

4 グループワーク

以下のテーマについてグループワークを行った。

- ・春日原駅周辺エリアにどのような価値を求めるか
- ・駅や高架下にできる新たなスペースの活用方法

5 グループワークの発表

※網掛けは発表者。

1班 天野美江、石川賢人、古森政基、進乙弘

- ・春日市は、公共施設が点在している。春日原駅の中にできる新たなスペースに機能を集約してはどうか。
- ・イベントが開催できる施設があった方がよい。専門のホールを設けるのではなく、一つの大きなスペースの中で、広報や子どもの一時預かりの機能と併せて複合的な機能を持たせる良いと思う。イベントを開催する場合には、文化協会との連携を取りながらすると良いのではないかな。
- ・道の駅のような特徴のある物産展を開催してはどうか。
- ・現在の春日原駅周辺は、西鉄バスのバス停が狭い場所にあり渋滞している。新しい駅前広場では、主にバスが利用するロータリーが整備されるとのことなので、西日本鉄道(株)と連携・協力して、市内を巡るバスの便・路線を増設してはどうか。

2班 園木崇嗣、大東九二生、太田隆、園田美結、藤井友美

- ・駅自体を春日市、大野城市と分け過ぎずに共用して活用するスペースにすると良い。
- ・春日原駅を高架化する利点として、渋滞が緩和され、より人と人との交流が増えると思うので、対人の魅力を上げる場所になると良い。
- ・現在、商店街はあるが交流スペースが無いので、広くなった歩道のスペースで一時的な出店やイベントを開催することで、まち自体のPRになり活性化されるのではないかな。また、春日市と大野城市の店舗同士の繋がりを持つ場にしてはどうか。
- ・コミュニティバスの路線を春日市と大野城市で繋げることで、活動の場が広がられたら良いと思う。
- ・駅のフリースペースは、インスタスポットとして春日市のマスコットキャラクターである「かすがくん、あすかちゃん」と大野城市のマスコットキャラクターである「大野ジョー」の顔出しパネルを設置してはどうか。
- ・新たにできる高架下にミニ児童館を設置して、子育て世代に有用な場所にしてはどうか。
- ・市役所まで来ることが難しい人のために、駅内に小規模な出張所を設置してはどうか。
- ・高架下のスペースに、ライブハウス等の電車の音が気にならない施設を作ってはどうか。
- ・人が集まりやすい特徴を持った遊び場や事務所を作ってはどうか。例えば、西鉄電車の歴史が分かる博物館やミニ四駆のコースを設置してはどうか。

3 班 池田賢一、服部浩治、加藤太志郎、藤石秀昭、土持静代

- ・駅が新しくなっても基本的な機能は変わらないと思う。駅は自然と人が集まる場所なので、利用者にとって役に立つ場所にするべきである。
- ・駅の中にできる新たなスペースは、証明書等を発行できる出張所があると良い。

- ・高架下については、一時的に子どもを預けられる場所にしてはどうか。また、高齢者が利用できる施設も検討し、コミュニティスペースにしてはどうか。

6 市長所感

本日も様々なご意見をいただきありがとうございました。

最近では、駅が果たす役割が変わってきました。以前は、駅周辺であれば何もしなくても賑いがありましたが、これからは賑いを創出していかなければならない時代に変わってきたように思います。

新しい春日原駅では、駅の東側にイベントができるスペースを設けますが、西側はバスの乗降場といった整備を行います。また、高架化することで、新たに駅下にスペースが生まれます。この駅下スペースの15%が、市の利用できるスペースになります。ここは、多くの方が利用される場所になりますので、市の出張所や情報発信の場等、様々な利用方法が考えられます。また、利用計画未定箇所として、駅の出入り口から350m離れた場所があります。この場所の利用方法として、託児所や高齢者が集まる憩いの場にしてはどうかという意見を頂きました。駅の出入り口から少し離れていますので、こうした施設を作るのが適切なのか引き続き検討してまいります。

昔は、駅周辺の商店街は賑わっていましたが、春日原駅から天神まで電車で10分で行くことができ、また、近隣にショッピングセンターもあるため、なかなか地元の商店街が発展しにくい現状もあります。しかし、春日原駅周辺も高齢化が進んでいます。高齢者の方からは、ショッピングセンターまで行くのは遠いので、春日原駅に買い物できる場所ができないかというご意見もあります。

このように、様々なご意見を頂いておりますが、一つ一つ検証して、どういう形で実現できるか検討したいと思いますので、お気づきの点があれば、引き続きご意見をいただきますようお願いいたします。

本日は、多くのご意見を賜りまして、本当にありがとうございました。

7 閉会

5. かすが市民懇話会 会員名簿

かすが市民懇話会 第15期会員名簿	
(任期：平成30年7月1日～令和2年6月30日)	
名前	備考
やました かつよし 山下 勝義	団体推薦会員 筑紫農業協同組合 会長
あまの よしえ 天野 美江	団体推薦会員 春日市文化協会
いけだ けんいち 池田 賢一	団体推薦会員 春日まちづくり支援センター・ぶどうの庭
はぎわら こういち 萩原 孝一	団体推薦会員 春日市身体障害福祉協会
なかにし ひでなり 中西 秀成	団体推薦会員 春日市商工会
そのき たかし 園木 崇嗣	団体推薦会員 春日市社会福祉協議会
りゅう みやこ 龍 都矢子	団体推薦会員 春日市子ども会育成会連絡協議会
ながの よしお 長野 義雄	団体推薦会員 春日市体育協会
あんざい しずか 安齋 静香	団体推薦会員 春日市小中学校PTA連絡協議会
はっとり こうじ 服部 浩治	団体推薦会員 春日市シニアクラブ連合会

かすが市民懇話会 第15期会員名簿	
(任期：平成30年7月1日～令和2年6月30日)	
名前	備考
いしかわ けんと 石川 賢人	市民公募会員
おわり かつひろ 尾割 勝廣	市民公募会員 副会長
かとう たしろう 加藤 太志郎	市民公募会員
きたむら たかし 北村 豪司	市民公募会員
しまむら としひろ 嶋村 俊寛	市民公募会員
そえだ たかひろ 添田 孝浩	市民公募会員
だいとう くにお 大東 九二生	市民公募会員
たなか みちろう 田中 道朗	市民公募会員
はやみ ひとし 速見 均	市民公募会員
ふじいし ひであき 藤石 秀昭	市民公募会員

かすが市民懇話会 第16期会員名簿	
(任期：令和元年7月1日～令和3年6月30日)	
名前	備考
おおた たかし 太田 隆	市民公募会員
	副会長
こもり まさき 古森 政基	市民公募会員
しん いつひろ 進 乙弘	市民公募会員
すぎき たかし 洌崎 隆司	市民公募会員
そのだ みゆう 園田 美結	市民公募会員
	副会長
つかもと あけみ 塚本 あけみ	市民公募会員
つちもち しずよ 土持 静代	市民公募会員
ふじい ともみ 藤井 友美	市民公募会員
ふじわら まさひろ 藤原 正博	市民公募会員
やまもと ゆか 山本 優果	市民公募会員

6. かすが市民懇話会要項

(平成 16 年 5 月 6 日告示第 74 号)

改正 平成 20 年 3 月 31 日告示第 32 号

平成 27 年 3 月 26 日告示第 56 号

平成 28 年 3 月 31 日告示第 77 号

(設置)

第 1 条 行政への市民参画の機会の拡大を図り、市民の率直な意見を行政施策に生かし、市民と行政との協働による市政運営を一層推進していく必要があるため、かすが市民懇話会(以下「懇話会」という。)を設置する。

(活動)

第 2 条 懇話会は、次に掲げる活動を行うものとする。

- (1) 市の重要課題や施策に関する意見交換及び提言
 - (2) 市政の運営に関する調査及び研究
 - (3) その他懇話会の設置目的を達成するために必要な活動
- 2 市長は、前項の活動によって提案された事項については、市政の運営に生かしていくよう努めるものとする。

(会員)

第 3 条 懇話会の会員(以下「会員」という。)は、40 人以内とする。

2 会員は、市内に居住し、通勤し、又は通学する 18 歳以上の者であって、市政に関心と熱意のあるもののうちから、次に掲げる区分により市長が依頼する。

- (1) 市内の公共的団体等が推薦する者
 - (2) 公募による者
- 3 会員の依頼期間は、2 年間とする。ただし、2 年間に限り依頼期間を延長することができる。
- 4 会員は、特別職職員としての身分を有しないものとする。

(会長及び副会長)

第 4 条 懇話会に会長及び副会長を置き、会員の互選により定める。

2 会長は、懇話会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(部会)

第5条 懇話会には、必要に応じて部会を設けることができる。

(庶務)

第6条 懇話会の庶務は、経営企画部秘書広報課において行う。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、懇話会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この告示は、公布の日から施行する。

(平成16年度における会員数の特例)

2 平成16年度における会員数については、第3条第1項及び第2項の規定にかかわらず、同条第1項中「40人」とあるのは「20人」とし、同条第2項各号中「20人」とあるのは「10人」とする。

附 則(平成20年3月31日告示第32号)

この告示は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成27年3月26日告示第56号)

この告示は、公布の日から施行する。

附 則(平成28年3月31日告示第77号)

この告示は、平成28年4月1日から施行する。

